

ユーロ圏の直面する「日本化・円化・日銀化」現象

唐 鎌 大 輔 CMA

目 次

1. 7つの共有体験で読むユーロ圏の「日本化・円化・日銀化」
2. 通貨ユーロが下がらない共通通貨特有の事情

ユーロ圏の直面する「日本化・円化・日銀化」現象は、日本とユーロ圏の間に横たわる「7つの共有体験」に沿って理解すると論点を整理しやすい。現状はユーロ圏が日本化するかどうかの「過渡期」に差し掛かっていると見受けられ、これまでとは違う評価軸で欧州を見つめる必要性が強まっていると考えられる。こうした状況下、当面は財政・金融政策ともに、成長を支援する方向での運営が継続されることをEUの政策当局には期待したい。

1. 7つの共有体験で読むユーロ圏の「日本化・円化・日銀化」

はじめに：「債務危機」の次に来るキーワード「日本化・円化・日銀化」

欧州債務危機が取り沙汰され始めた2009年末以降、ユーロ圏には分裂・崩壊・瓦解という仰々しい表現が飛び交い、通貨ユーロにも暴落予想が付いて回った。だが、危機発生から丸5年が経とうという今でもユーロは存在しているし、しかもその間の値動きは極めて堅調であった。多くの専門家が09年以降のユーロ相場を正確に予想する

ことができなかつたのは何故なのだろうか。そろそろ、危機後の欧州について論点の総括を行い、「次のテーマ」に備えることが必要な時期に差し掛かっているように思う。

崩壊の可能性までさやかれた通貨の値動きが堅調となった理由は何だろうか。思えば「地力が疑わしいにもかかわらず通貨は堅調」というのは円に散々付いて回ったテーマであり、われわれ日本人は何度も痛い目に遭わされてきた事象である。そう考えると、「ユーロと円の間には何らかの共通点があり、それが底堅い値動きをもたらしている」という仮説は検討に値する。実際に分析



唐 鎌 大 輔 (からかま だいすけ)

みずほ銀行国際為替部 チーフマーケット・エコノミスト。JETRO（日本貿易振興機構）入構後、日本経済研究センター、ベルギーの欧州委員会経済金融総局への出向を経て、2008年10月より、みずほコーポレート銀行（現みずほ銀行）。12年J-money第22回東京外国為替市場調査ファンダメンタルズ分析部門では1位、13年／14年は2位。著書に「欧州リスク：日本化・円化・日銀化」（東洋経済新報社、2014年7月）。